

小僧と狐

—山形の民話より—

作詞 藤沢竹晴

山寺やまでらに小僧こぞうありき その名なをずいてん 和尚おしょうが留守るすで小僧こぞうが留守居るすい

いたずら狐きつねが庫裡くりの口くちずいてん ずいてん これずいてん

エ、畜生ちくしやうめ奴わらまた悪にくき憎きつねい狐ほんどうと本堂まどの窓のぞより覗きつねけば 狐せなかの背せなか中

太ふとい尻尾しっぽで戸とをこすると ズイ 頭あたまをぶつけてテンずいてん

小僧こぞう賢かしこく戸口とぐちに廻まわり内うちに潜ひそんでウフフツフ

ズいとこすった戸とをがらりテンと構かまえた狐きつねはもんどり

小僧こぞうすかさず追おいかける

逃にげる狐きつねを本堂ほんどうに追おいつめてみりや へこりやどうじや

狐きつねはあらで仏壇ぶつだんに二つ並ならんだお釈迦しゃかさま様 へ化ばけたな 化ばけたな

釈迦しゃかは照てる照てる 鈴鹿すずかは曇くもる 間あいの土山つちやま 狐雨きつねあめ

まこと本尊ほんぞん様ならば お勤つとめ上げれば舌したを出だす 木魚もくぎよ叩たたいて

ナムマイダ ナムマイダ ア ナムマイダ つられた狐きつねのお釈迦しゃかさま様

思おもわずぺろりと長ながい舌した

それでは本当ほんとうのお釈迦しゃかさま様 庫裡くりで仏供ぶつぐを参まいらしよう 狐きつねはあとから

のつこのこ

まず行水ぎやうすいと その襟首えりくび ここぞと掴つかんで 大釜おおがまに入れてピツシヤリ

閉とじ蓋ふたの 中なかで狐きつねが目めを回まわす いたずらすると

ハイこの通とおり